

令和 元年 6 月 18 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03089

研究課題名（和文）GISソフトを活用した前漢郡国制の地政学的研究

研究課題名（英文）Geopolitical study of the former Han county-state system using GIS

研究代表者

杉村 伸二（SUGMURA, SHINJI）

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90411496

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、前漢を通じた県・侯国の位置情報とその所属郡国の変遷を視覚的に追うことのできる歴史地図を作成し得たこと、また県・侯国の位置情報と所属郡国の変遷とを地形のうえで確認することが可能となったことである。その結果、漢代における郡県支配の在り方が、どのような地政学的条件のもとに行われていたのかを考察するツールとして、GISソフトを用いた歴史地形図は非常に有用であることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、これまで歴史学分野では使用されていなかったGISを活用した点にある。GISとは地理情報（Geographic Information）に関連づけられた様々な情報を、作成、加工、整理、分析するための情報技術である。GISは、視覚的にも訴求力のある「位置」＝地図のもとに、様々な属性の情報を統合的に整理できる。また単なる白地図ではなく、地形図を用いることで、地形という「歴史の舞台」に密着させて重要な情報を付加できる。GISの導入により、従来の研究では見えなかった様々な情報の傾向や関連性などを可視化することができるようになった。

研究成果の概要（英文）：The results of this study are as follows. To having created a historical map that can visually track changes in prefecture location information and prefecture affiliations during the Former Han Dynasty. Also, it became possible to confirm them on the terrain. As a result, we confirmed the following. The historical topographical map using GIS is very useful as a method to consider what kind of geopolitical conditions under the county-prefecture system in the former Han Dynasty.

研究分野：中国古代史

キーワード：郡国制 歴史地形図 地政学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

1. 研究開始当初の背景

近年の出土簡牘史料の増加と ICT 技術の進展により、中国古代史研究とりわけ漢代の国制および政治制度に関する研究の進展には目覚ましいものがある。文献・簡牘を含めた広範な史料群からの情報検索・収集、およびそれにより得られた情報の処理・分析が容易になったことで、新たな視点からの研究が可能となってきた。

申請者のこれまでの研究は、封建的要素の強く残る前漢初期において、宗室諸侯王国の存在の有用性を強調しつつ、郡国制の統治面での有効性を指摘し、さらに列侯の封建的要素に着目して、その歴史的形成過程を明らかにしてきた。今後は郡国制の実態をより具体的に考察し、「実質的な郡県制」となったとされる武帝期以降への歴史的展開を明らかにするべく、郡県および王国・列侯国に関する情報の収集・整理を進め、それらを用いた研究を遂行する計画を立てている。

そうした研究を進めるうえで必要となる郡県や王国・侯国に関する情報は、文献・簡牘史料に散在しているうえに、前漢 200 年間の間に、郡県や王国・侯国の改廃や新設は幾度も行われており、今後研究を遂行するには、それらの情報を統合的に整理・検討する必要がある。もちろん従来の研究においても、郡県や王国・侯国の改廃や帰属、地望に関する考証を行った研究は数多く存在する。それらの研究では、改廃や帰属の経年変化については年表で、地望の考証については一覧表や地図を用いるなどの工夫は行われているものの、それらの情報を統合的に整理、分析した研究は行い得なかった。それはひとえに様々な属性をもつ情報を統合的に整理する手段が見いだせなかったことによるものと思われる。

当初申請者も従来の手法で情報の整理を試みたが、どうしてもすべてを統合的に整理することに困難を感じていた。とりわけ郡県などの情報を整理するには地図は必須であり、地図をベースとした情報の統合的な整理ができないか模索していた。そこで、本研究で連携研究者となっている自然地理学を専門にする黒木貴一氏（福岡教育大学・教授）に相談したところ、地理学で使用される GIS（地理情報システム）ソフト「ArcGIS」であれば、地図をベースに様々な属性の情報が統合的に整理でき、それを用いた分析も可能であるとの示唆を受け、本研究の着想を得た。

2. 研究の目的

本研究では、GIS（地理情報システム）ソフトを用いて前漢の歴史地形図を作成し、その地形図の上に前漢の郡県・王国・侯国の所属とその時間的な変遷をデータベース化する。そのうえで、そのデータベースを活用し、前漢における王国や侯国の配置や改廃に関する地政学的な傾向や特徴、その時間的な変遷を考察する。これらの作業を通じて、漢代郡国制の実態の一端を明らかにするとともに、今後の漢代史研究に様々な可能性を見出し得る GIS ソフトによる統合的な地形図データベースの有用性を提示する。

3. 研究の方法

（1）本研究期間以前の状況

所属機関の競争的資金を獲得し、GIS ソフト「ArcGIS」を使用した前漢時代の歴史地形図の作成に着手した。地図の底本として、譚其驤主編『中国歴史地図集』第二集（中国地図出版社、1982）西漢時期の分割地図 11 枚を使用した。これは『漢書』地理志記載の郡県情報、すなわち前漢平帝の元始二年（A.D.2 年）の状況を示したものである。この 11 枚に分割された歴史地図を一枚の地図に集約し、その地図に、前漢の県、侯国の位置をポイントしていった。地形図にはインターネット上からフリーでダウンロードできるものを利用した。技術的な指導・助言は、連携研究者として申請している黒木貴一氏（福岡教育大学教授）に仰いだ。入力作業には学部生一名を入力補助者として入力作業を進めていった。ここで作成した歴史地形図を本研究期間で作成しようとする統合的なデータベースのプラットフォームとした。

（2）本研究期間における研究方法

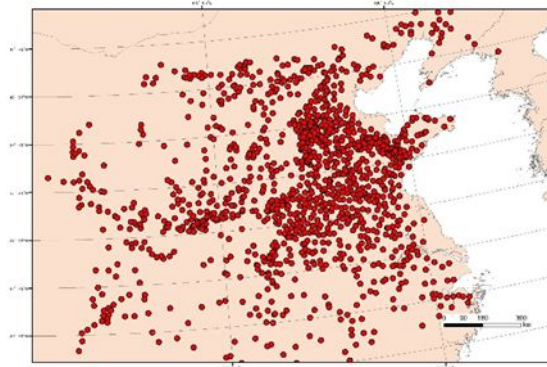
まずは、ポイントされている県と侯国が所属する郡や王国の時間的な変遷の情報をデータベースとして付加していった。具体的な作業としては、元始二年当時の県・侯国の所属郡県の情報を、まずは Excel ファイルで一覧表として作成し、それを「ArcGIS」に流し込んでいった。

そのうえで、漢郡所属の県・侯国と王国所属の県・侯国とを色分けして表示できるようにし、当時の官と王国の領域がどのように配置されているかを視覚的にとらえられるようにした。その後、この所属郡県情報の時間的な変化をデータベースに付加した。郡・王国の区域変化については、宋・全祖望の『漢書地理志稽疑』といった古典的な研究をはじめ、近年の周振鶴『西漢政区地理』（人文出版社、1987）、秋川光彦「前漢齊悼惠王の封域」（『三康文化研究所年報』34、2003）、「前漢楚元王の封域」（『大正大学大学院研究論集』29、2005）等の一連の研究を参考にした。列侯国に関しては、紙屋正和「『漢書』列侯表考証」（『福岡大学人文論叢』15-2～4、1983～84）、仲山茂「前漢侯国の分布」（『名古屋大学東洋史研究報告』30、2006）などを適宜参照した。

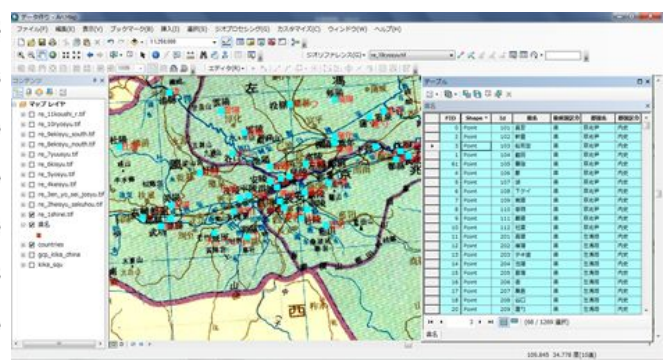
作成した歴史地形図を用いた漢初郡国制における郡と王国についての地政学的考察については、漢初郡国制に至るまでの郡と王国の歴史的推移について予備的考察として、秦郡制と封建的秩序の漢代への継承関係について考察した。

4. 研究成果

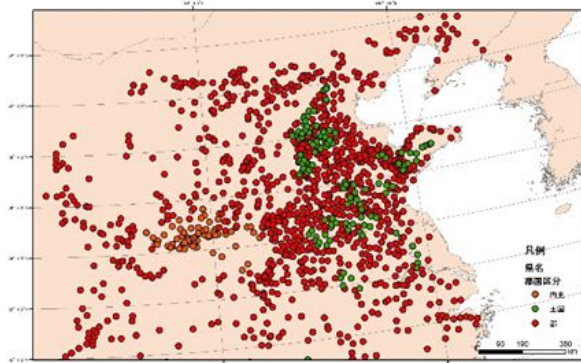
本研究期間を通じて、前漢を通じた県・侯国の位置情報とその所属郡国の変遷を視覚的に追うことのできる歴史地形図を作成した。これにより県・侯国の位置情報と所属郡国の変遷とを地形のうえで確認することが可能となった。



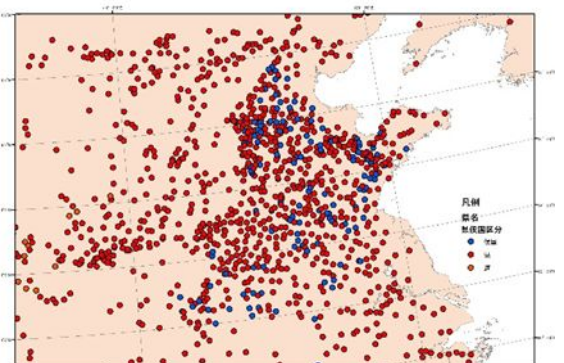
【図1】県の位置



【図2】歴史地図上での県の位置と所属情報



【図3】王国所属の県の分布（元始二年）



【図4】侯国の分布（元始二年）

この作業を通じて、漢代における郡県支配の在り方が、どのような地政学的条件のもとに行われていたのかを考察するツールとして、GIS ソフトを用いた歴史地形図は非常に有用であることが確認された。近年では出土資料を用いた秦漢の文書伝達や交通経路の研究も行われているが、そうした研究においても、視覚的な理解を深めてくれる GIS ソフトによる歴史地形図は有用であると考えられる。また、県の位置データに関連させる情報は多様なものが想定される。先ほどあげた文書伝達や交通経路以外にも、様々な研究分野への応用が可能となるだろう。例えば、文献史料に登場する人物の出身地のデータベースを地図データベースに付加すれば、全国的な人材登用の傾向が地図上で可視化することができ、人事制度や官僚制研究にも新たな視座が得られることが予想される。

様々な情報が県を軸とする位置情報に関連して集積できるのが GIS ソフトの利点である以上、その利点を活かすためにはより多くの情報を付加していくことが重要となる。そうした作業は個人の研究者には限界がある。より多くの研究者の協力を得るべく、WEB での公開、さらには WEB 上において共同で入力作業ができるようなシステムが構築できれば、より多くのデータを様々な視点から検討していくことが可能となる。文献史料を用いた地道な研究の重要性はもちろんであるが、新たな技術による試みが新たな視点を与えてくれることも事実である。GIS ソフトを用いた歴史地形図作成とその活用の試みは、まだ着手したばかりである。技術面や活用方法などを向上させていけば、GIS ソフトの活用は、今後の漢代史研究に様々な可能性を齎してくれるものといえる。

こうした GIS ソフトを活用した歴史地形図作成および統合データベース作成の意義や、その可能性についての方法論、今後の活用の有効性などについてまとめ、学術論文として公刊した。また地形図データベースについては、Web ページを開設し、画像データとして公開できるようにしている。今後はこの web ページをプラットフォームとして上記のような共同作業ができるようその方法を検討していく予定である。

歴史地形図を用いた漢初郡国制における地政学的考察については、考察対象として検討している定陶を含む淮北地域についての予備的考察を行った内容を学会で発表した。淮北地域が戦国後期から漢初にかけてまでの時期において、どのような地理的特徴を有していたかを、文献史料を用いて明らかにしたものである。この考察の結果、定陶を含む淮北地域は、秦が郡県を

設置する以前、魏・楚の争奪地であった時期にも、魏・楚いずれの領有にあっても郡や県によって統治されており、東方地域においては例外的に郡県制の浸透が進んだ地域だったことが明らかとなった。戦国時代以来、定陶は東方地域における水運、交通の要衝であり、商業の盛んな地域として史料上に現れている。そうした地理的特徴は漢初にまで継承されており、その地理的特質が漢代において一貫して諸侯王国が立てられる地政学的要因であることが予想される。今後は、定陶に関わる文献史料をデータベースとしてGIS歴史地形図に付加していき、定陶を含む淮北地域を中心とした漢初郡国制の地政学的考察を進めていく予定である。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

杉村 伸二「GIS ソフトを用いた漢代歴史地図作成の試み」(『福岡教育大学紀要(第二分冊・社会科編)』第66号、2017年)査読無

〔学会発表〕(計1件)

杉村 伸二「漢の秩序の形成過程 郡制導入を中心に」(平成29年度九州史学会東洋史部会)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
漢代歴史地形図作成プロジェクト
<http://www.sugimurashinji.jp/>

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。